



高校へ進学される 家庭の皆様へ



同窓会長
庵原直道

私たちは羽茂高校の存続発展を願っています

羽茂高校は昭和九年に羽茂専修農学校として創立以来80年の歴史を刻んで参りました。時代は変わり今、地方は人口の減少に歯止めがかからず学校の統廃合が進んでいます。当校創立以前の、中等教育を受けたくても受けられなかった時代を思うとき、自宅から通学出来る県立高校が身近にあることに改めて感謝しなければならぬと思うのです。教育環境の逆戻りは避けなければなりません。このことが、同窓会が羽茂高校の存続発展に力を注いでいる所以です。皆様の力強い応援をお願いいたします。

同窓会は羽茂高校の魅力ある学校造りに協力を惜しみません

魅力ある高校とは、進学を希望される生徒さんには、希望の上級学校に合格できる実力を身につけることであり、就職を希望される生徒さんには、希望の職場に確実に就職できることであり、学校生活では、魅力的なクラブ活動を通じて楽しく有意義に過ごせることではないでしょうか。今春の卒業生の進路は進学70%、就職30%でした。合格先大学や就職先など、詳しくは羽茂高校のホームページに掲載されていますので、生徒さんの頑張った結果をご覧ください。

一方、羽茂高校には8年連続で全国大会に出場してAクラス入りした郷土芸能部があります。また、昨年の佐渡島内の英語スピーチコンテストでは羽茂高校が上位の1位2位を独占しました。剣道部も強いです。更に、羽茂高校では佐渡市外からも入

学希望者が集まるような魅力ある学校づくりを模索しています。同窓会ではこのような動きに協力を惜しみません。

羽茂高校は進学にも就職にも不足のない教諭陣で指導してまいります

羽茂高校は小規模学校ですが、生徒を指導する教諭陣は充実しており、進学指導や就職指導に不安はありません。安心して羽茂高校に入学して頂きたいと思えます。

皆さんの入学で南佐渡唯一の県立普通科高等学校の存続を図り発展させましょう

羽茂高校は一学年二学級の小規模校ですが、南佐渡の住民にとつて、自宅から通学が可能な南佐渡唯一の県立高等学校です。昨年の創立80周年記念事業では、普通教室にエアコンを設置して学習環境の向上を図りました。羽茂高校に入学し、希望進路を実現することや、卒業生が社会で活躍することが、羽茂高校の評価を高め、羽茂高校の魅力を上させます。そのことが、当校の存続発展の大きな力となります。地域のご子弟がこぞつて羽茂高校に入学されんことを願ってやみません。

「羽高は今」



校長
山川徹也

私は、今春校長として赴任してきました。初めて羽茂高校の玄関に入った時、通りかかった生徒たちの元氣な挨拶にうれしくなりました。羽茂高校は一学年二学級という小規模校ながら、ほとんど全ての生徒の挨拶がよいのです。本当に素直で穏やかで、人として周囲から愛される素養がある子たちだと感じました。

進路については、今春卒業生の約七割が進学、約三割が就職で百分の内定をいただきました。進学では、国公立大学で新潟大学に二名、新潟県立看護大学に一名が合格し、私立大等でも、心理カウンセラー、看護師、保育士など、多数の生徒が将来は郷里で活躍したいという希望を持って進学しました。

今年度は新入生四十九名が入学し、全校生徒は百六十六名になりました。人数的には定員に達しない状況ですが、そのことを前向きに捉え、余裕ある学習環境であると考え、一人ひとりの「個」を大事にした丁寧な教育活動を目指しています。

就職、進学を問わず、基礎的な学力は不可欠です。自分の将来を考えさせ、学力の向上を図り、より高い進路目標に向かって努力するように指導したいと考えています。本校では、全学年で学習合宿を実施しています。わずか一泊の合宿ですが、十五時間勉強するという経験をします。このおかげで学習習慣の定着と学力向上に向けた意識啓発の効果が現れています。また計画的な放課後補習と朝学習を実施し、全学年で補習に取り組んでいます。

職員は校長、教頭、事務長、教諭十七名、養護教諭、実習教員、非常勤講師、事務職員、学

生徒指導については、家庭の愛情と地域の教育力により、本校の生徒は全体として節度を身に付けています。地域からは時折お褒めの言葉をいただくこともありますが、注意を受けることもありません。しかし問題点を

技技術員、それに加え、就職支援員、外国人講師、臨床心理士が定期的に教育活動に関わり、総勢三十七名です。

指摘されれば謙虚に反省できる生徒がほとんどで、学習環境は落ち着いています。学校は、大人になろうとしている生徒に、夢の実現のために必要な知識や考え方を学ばせるところです。社会人として信頼されるために必要な基本的生活習慣や規範意識は、高校卒業までにしつかりと身につけてほしいと考えています。

本校は部活動も盛んで、中でも郷土芸能部が全国高等学校総合文化祭に九年連続出場することになっており、「全国Aランク」の評価をいただいたこともあります。今年の全国大会も、高い目標達成のため、心技体に一層の磨きをかけるよう練習に励んでいます。剣道部は、今年の春季地区大会では男女とも団体優勝を勝ち取るなど、その成長は目を見張るものがあります。野球部は今春、新入生の加入で選手が十七名になり、春の北信越県予選には羽高単独チームで出場し、新チームでの初得点を挙げました。

小規模校の部活動は、部員不足に加え、指導者確保が課題ですが、例えば、郷土芸能部は地域の情熱的支援により素晴らし

い地元講師から熱心な指導を受けています。運動部でも陸上競技とバドミントンに外部コーチの協力を得て技能向上を図っています。

羽高は今、生徒とともに着実に成長しています。素直な生徒たち、誠実な職員、理解あるPTAと同窓会が協働して、更なる発展に向けて努力を続けています。中学生の皆さんには、是非この羽高に入学して、充実した高校生活を送り、将来へのしつかりとした基礎作りをしてほしいと思っています。よろしくお願いたします。



一人一人が 羽茂高校応援団

PTA会長

岡崎 一也

平成27年度PTA会長の岡崎一也と申します、よろしくお願いたします。

昨年は開校80周年の記念事業を盛大に執り行うことができた。地域の皆様、同窓会の皆様をはじめ多くの方々のご協力の賜物と思えます。この紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。私が参加して感じたことは、この学校は南佐渡地域に無くてはならない心の拠り所と改めて感じました。

羽茂高校PTA便りにも書いた文面ですが同じものを載せさせていただきます。

「今年度の入学者数ですが、50名を切る結果になっております。佐渡市全体でも人口数、生徒数の減少という根本的問題でもあるとは思いますが、現状の二学級の維持を何とかしていきたいと思っております。PTA会員の皆様におかれましても、本校に生徒の入学者数を増やす、羽茂高校のPR活動を一人

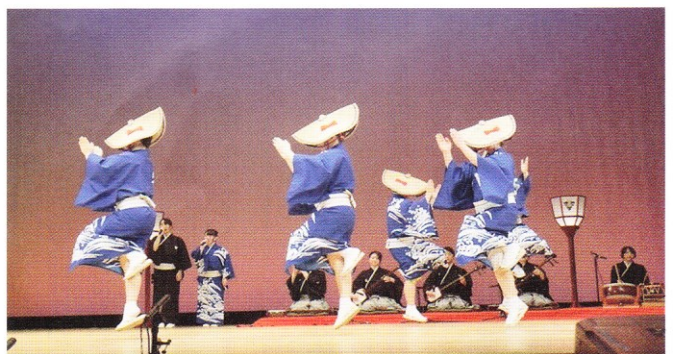
一人の口コミ活動のような事をしていたけるとありがたいと思っております。」

この事態は今後五年間特に、厳しい状態になる見通しです。また、他の地区への進学を希望する生徒がいると思われま。一学級20人を切るかもしれま。羽茂高校同窓会の皆様・甲斐佐渡市長はじめ地元議員の方々も県へ陳情活動を行って頂いており、感謝申し上げます。

羽茂高校自体は大変活発に魅力ある学校作りをしておりま。郷土芸能部では全国大会の常連校となっております。

しかしながら、本校だけでこの難局を乗り越えられるでしょうか。まず幼・小・中・高との連携をし、共通の価値観を持つことが大事ではないでしょうか。

また、地域の皆様におかれましても、一人一人が羽茂高校応援団として見守っていただきたいと思えます。魅力ある地域づくりが応援につながります。よろしくお願いたします。



羽茂高校の顔として

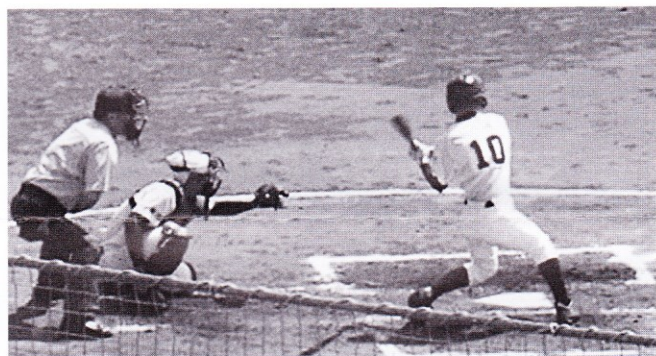
羽茂高校郷土芸能部

顧問 目黒陽子

羽茂高校郷土芸能部が同好会として発足したのは、平成十八年のことです。今年で創立十年目となる当部は、今や本校を代表する部活動に成長しました。部員数も年々増え、現在は28名で活動しています。また、知名度も次第に上がり、先月出演した宵の舞では、「羽茂高校の演技を見るために佐渡に来た」という嬉しい声援をいただきました。

た。それと同時に、島外からの出演依頼も増えており、昨年度は三回、島外で演技を披露する機会を得ました。その中でも、二月に開催された「新潟食の陣」のステージに出演した折、新潟羽高会の方が応援に駆けつけてくださったことは、生徒たちにとって大きな励みとなり、我々にとっても大変嬉しい出来事でした。また、昨年は創立80周年記念事業の一環で三味線を購入していただき、今年は支援者の方からのご寄付により着物を新調することができました。同窓会の皆様からの物心両面にわたるお力添えに、心よりお礼申し上げます。

さて、郷土芸能部という「特殊」な部活動が、この羽茂高校の顔となるまでの発展を遂げることができたのは、多方面からのご支援があつてのことです。技術については、創部以来、羽茂民謡研究会の皆様が熱心にご指導くださっており、毎日の練習場所として羽茂公民館を使わせていただいています。これらの惜しみないご支援に報いるため、地域へのさらなる貢献、そして全国大会優勝を目指し、郷土芸能部一丸となつてこれから



も精進してまいります。

なお、郷土芸能部にとつての全国大会に当たる「全国高等学校総合文化祭」が、今年は滋賀県で開催され、当部は7月29日に出場します。これにあわせて、現地で声援を送る応援隊が結成され、同窓会、保護者、地域の皆様から広くご参加いただいております。重ねてお礼申し上げます。

【お知らせ】平成27年7月8日(水)放送のNHK「おはよう日本(関東甲信越版)」内で、羽茂高校郷土芸能部が紹介されました。

「人生の結果＝能力×熱意×考え方」

関東羽高会会長

堀口智顕

(昭五二卒)

夏休みが迫り、三年生にとつては高校生活も残り七ヶ月です。青春のこの時、やり残しや中途半端な状態のまま時間を流すことなく、支えてくれた方々への感謝の心を大事にして、後悔なきよう生きて欲しいと願います。

羽茂高校は小規模な高校ではありませんが、皆さんに未来への希望と勇気を持つていただけたらと思います。羽茂校生OBの私が18歳で東京に上京した後の体験談をお話させていただきます。一・二年生の皆さんにはまだまだピンとこないかもしれませんが、結論から言いますと、これからの人生を航海する上で、はつきりとした「生きる目的」を持つて生きてゆくことが大切だということです。

日々の勉強や羽校生の美德である礼儀正しさは、成すべき目的のための修練なのです。目的を掴んで目的成就のために日々の努力をしたとき、その人の人

生は黄金色の輝きを放つように成長することを実感します。かく言う私の場合、そのようなことを教えてくれる先輩はいないのでしようが、聞く耳を持たない私には聞こえませんでした。大変遅咲きというか、その生きる目的に目覚め、努力を開始したのは37歳のときです。佐渡から出てきてお金も信用も何も無かった私ですが、生きる目的に目覚めてからというもの、会社を経営する立場の私は昼夜を忘れて働き学ぶような状態で、誰よりも努力をすることを大切にしました。すると会社の業績は良くなり、笑顔の社員が増えて家族の人生も良い方向へと好転しました。何が違ったのか、と聞かれれば、「生きる目的を掴み、その方向へ考え方を向け、努力をした」。たつたそれだけのことです。特別な能力など何も無い私でしたが、誠実な仕事振りが認められ、お客様に喜ばれ、共に働いてくれる社員が増えていったのです。

私が目覚めた人生の目的とは以下のものです。「たつた一回限りの人生。一生をかけてどれだけ多くの人の幸

せを作ることができるか」です。このことを悟り目覚めてから、そもそも今の自分の力では人に役立つことなんてできない、このままではダメだと知識や実力のなさを自覚しました。当時、毎日が自分のやりたいことや楽しいことを求めて自分勝手な行動をしていましたし、学問に手抜きで言いたい放題、好き勝手なことをして、無意味で無駄な毎日を生きていました。怠惰で甘えていた自分を強く反省するわけです。自分の大馬鹿人生にピリオドを打ちたい。将来のために今を生きたい。まっとうな人生を送りたい。そのように人生を良くすると決意したとき、自分の生き方や考え方、そして何よりも毎日の努力が全く違つた凄まじいものとなりました。「人に役立つために私は生きるのだ。大善を成すために生きるのだ。不動産という仕事を通して世の中に貢献する」。生き方を決めました。

するとどうでしょうか。20年後、57歳になった今の状態から見ても分かりますが、人生の結果が良い方向へ、幸せな方向へとどんどん変わってきたのです。

つくづく思いますが、人生には方程式があります。「人生の結果、仕事の結果＝能力×熱意×考え方」だと。

皆さんは生きる目的を掴み、人生の方程式を大事に「努力にすぎる生き方」をするといひでしょう。努力は嘘をつきません。目的を掴んだ人間として正しい生き方をすることです。そこには多くの人に役立てる、価値高い人生が皆さんを待っています。

今こそ「将来、自分は何をして役立つのか」「何の仕事につき、どう役立っていくか」。そこを考えてください。分からない見つけるために本を読んだり、恩師の話や聞いたり、知らない世界へと行動を起こしたりすることに時間と情熱を使うことです。進んで変化する姿勢、現状に決して満足しない。挑戦し進化を目指すことは人間の生き方としてとても大切だと思います。



新潟羽高会会長

包 三治

(昭三二卒)

今年の集会「新潟羽高会の集いIN新潟」が四月二十九日開催された。

母校から新任の山川校長先生、本部、庵原会長をはじめ、元会長の菊地先生、中村さんのご来場を頂いた。

校長先生から母校の豊かな環境を生かした教育、地域と共に歩む学校方針等、会長から深刻な少子化に対応する学校支援策等、直面している諸課題に取り組むお話を頂いた。

また、菊地先生からは豪華な自署本を頂き、中村さんから故郷周辺の出来事や諸状況について、親しくお話を伺うことができて、ご参集の方々にも故郷の身近な情報として、共通のご認識を頂いたことに感謝します。

新潟在住の会員からは暮らしの情報や、諸先輩の処世訓など、お酒のメーターが上がるにつれて、賑々しく、騒然とひとときを過ごしてコミュニケーションを図ることができた。

二次会(カラオケ)では、紳士、淑女と思われた方々が、熱

唱熱演で喝さいを受けた。

老いも若きも肩を組んで、「校歌」を歌い平常では味わえない感傷に浸りながら、「じゃあ、また次回にネ。」で散会した。

わずか数時間の会合でしたが、心が通う同窓の力を痛感できたと思います。

早速、六月に反省役員会(飲み会)を開催して今後の活動について話し合った。

特に新潟近辺で開催されるスポーツや芸能などの大会には、当地からでもできるだけ大勢の方に参加して頂くよう連絡網を確立して呼びかけたいと思います。強豪校に力一杯立ち向かう選手の姿などには応援席も必ず感じます。

ネット配信は更に強化し、関連情報とのリンクを増加して伝達PRの充実を図りたいと思います。

激しい環境変化の中でありましても、「心が通じる対処策」は必ず成功につながるものと信じます。

学校と地域が一体となり、故郷から離れて、東京や県都で活躍している方々も、簡単、気軽にご参加出来る応援ネットワークが構築されて、同窓者一体と



なつた母校支援ができること心から願っています。



進路状況

キャリア教育部担当
(進路指導)

笹川 祐峰

昨年度の主な進路状況は下表のとおりです。卒業生53名のうち、大学・短大が9名(約17%)、専門学校等が29名(約55%)、就職が15名(約28%)で、ほぼ例年通りの進路状況となりました。

本校では、進路指導の取り組みとして次のようなことを行っています。まず、進学分野では、放課後の進学補習、夏期講習、学習合宿、全国模試の受験、入試問題や小論文・面接試験の個別指導などを実施しています。例年、国公立大学を含め、進学する生徒のほとんどがAO入試、指定校推薦、公募推薦といった推薦入試で進路を決めているため、一般受験でも勝負できる学力をつけるための学習指導は行いつつ、面接練習や小論文指導といった推薦入試対策指

導を、今後も生徒一人一人にきめ細かく実施していきたいと思っています。

就職に関しては、企業見学やインターンシップ、職業講話、履歴書・志望理由書の作成添削指導、公務員試験対策、面接の個別指導を行っています。昨年度は、景気が上向きと言われ、求人数も県内・佐渡島内共に増加したため、就職希望の生徒全員が比較的早い時期に就職先を決めることができました。なお、すべて県内就職でした。本年度も面談等により生徒の適性を把握しながら、進路相談支援員等も有効に活用し、就職内定12月末までに100%を目指して指導していきます。

進学・就職に共通する取り組みとしては、年3回の進路ガイダンスや新入生意識啓発講演会を行っています。進学・就職共に一人でも多くの生徒が希望進路の実現をできるよう、担任、キャリア教育部を始め教員一丸となってサポートしていきたいと思えます。

平成26年度 卒業生の進路状況

◎国公立

大学 新潟大学(医保健・教育)、新潟県立看護大学(看護)

◎私立

大学 新潟医療福祉大学(医療技術)、新潟青陵大学(看護)、新潟工科大学(工)、高千穂大学(経営)

短大 新潟工業短期大学(自動車工業)、信州豊南短期大学(幼児教育)

◎専門学校等・他

県内 新潟県農業大学校(2)、新潟医療技術専門学校(3)、新潟医療福祉カレッジ(3)、大原情報医療専門学校、新潟情報専門学校、新潟工科専門学校、新潟コンピューター専門学校、新潟国際自動車大学校、北里大学保健衛生専門学院、日本こども福祉専門学校(3)、国際ビューティーマード専門学校、国際ペットワールド専門学校(2)、国際メディカル専門学校、シェフパティシエ専門学校、新潟県厚生連佐渡看護専門学校(2)、伝統文化と環境福祉の専門学校(3)、鼓童文化財団研究所

県外 北里大学保健衛生専門学院

◎就職

島内 (財)赤泊振興公社、(株)コープ佐渡、(株)サドソーイング、セイデンテクノ(株)(2)、中野建設工業(株)、(有)春川商会、(株)フレッシュマツヤ、(株)北雪酒造、本間建設(株)、小佐渡福祉会

県内 (株)重川材木店建築部、(株)ブルボン、メディカル・ケア・サービス新潟(株)

県外 東北電力(株)(※県内勤務)

